

「ぬくもりを届けたい 手から心へ」

たまちゃん通信

令和2年4月発行 122-4

発行：日本のお手玉の会本部 〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町10番1号

TEL：0897-32-0302 / FAX：0897-32-0311

e-mail:honbu@otedama.jp URL：http://www.otedama.jp

千代田区の社協だよりに掲載

神田お手玉の会の探訪記事を

神田お手玉の会（石川喜助会長）の例会を、社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会が発行する情報マガジン『ボランティア』の田端萌夏記者が訪ね、その探訪記事が同誌に掲載されました。その内容をご紹介します。（写真左：マガジン『ボランティア』）

「もしもし亀よ、亀さんよ♪」明るい歌声に合わせて、色とりどりのお手玉が空中に上がった。偕香苑(紀尾井町)で行われていたのは、お手玉講座。神田お手玉の会の催し物。講師の中山順子さん(日本のお手玉の会理事)の

掛声に合わせて、子どもから高齢者まで幅広い年代の参加者10人がお手玉で遊んだ。

参加者の松本源子(まつもと・もところ)さん(83)は、2年前から講座に参加している。たまたま目にした新聞広告で会の存在を知り、関心を持ったのがきっかけだ。「子どもの頃、友達とよくお手玉やゴム跳びで遊んでいたわ。お手玉をするのは7年振りだけど、小さい頃に覚えたものはすぐに感覚が戻るものね」と楽しそうに話す。

(写真右上：中山講師)



寝る前の10分間毎日欠かさず練習し、3個のお手玉を20秒以上両手で操る「お手玉段位」3段に今年合格した。

人と集まる機会がない今、大勢がいる場に居ることで気分転換になるといふ。(写真右下：掲載紙面)

お手玉遊びは、うつや認知症の予防にもつながる。両手で玉を投げたり掴んだり手や頭に寄せたりと、同時に多くのことを考えるからだ。お手玉を楽しめるのは高齢者だけではないようだ。

「伝承遊びは、もはや古い遊びではない」そう語るのは中山講師だ。「子供たちにとっては、新しい遊び。友達と一緒に遊びながら、協調性や想像力を養うことができる。子どもにこそ、ぜひやってほしい」と言う。(以下省略)



今回の記事は、千代田区社会福祉協議会が発行する『ボランティア』に掲載された。写真左：マガジン『ボランティア』